

山・里・まちのつながりから未来を考えよう ～善通寺弘田川調査からわかること～

小学校低学年 小学校高学年

小学校中学年 中学校

ESD
の要素

持続可能な社会
づくりの
構成概念

多様性

相互性

有限性

公平性

連携性

責任性

ESD視点で
育みたい
能力/態度

【批判】批判的に考え
る力

【未来】未来像を予
測して計画を立てる力

【多面】多面的、総
合的に考える力

【伝達】コミュニケー
ションを行う力

【協力】他者と協力
する態度

【関連】つながりを
尊重する態度

【参加】進んで参加す
る態度

プログラ
ムの目標

- ①外来種から地域の生態系を守る。絶滅危惧種に対する環境変化を理解する。
- ②持続可能な社会のためにまちの中にどのような自然が必要なのかを想像する。
- ③人間と自然がどう共生するとよいのかという視点からのまちづくり（生物多様性）。

プログラ
ムの概要

昔の生活の中に見られた生物について、祖父母から聞き取り、現在いなくなった生物の要因を考える。「レッドデータブック」などを使って、身近な生物で絶滅の危機に瀕している生物を調べ、リストに載っている生物を確認するとともに、問題視されながらも改善されていない理由を考えた。学校周辺の弘田川で環境調査をして、持続可能な社会のためにまちの中にどのような自然が必要なのか、現状と環境改善のヒントを探る。これまでの調査から、共生社会のイメージについて考え、人間と生き物の「棲み分け」が共生社会のキーワードであることに気づき、自分たちがやってみよう活動を発表する。

学習指導
要領との
関連

学年	中学校1・3年	中学校1年	中学校1年
教科/領域	理科/第1・2分野	道徳	総合的な学習の時間
学習内容	<p>2（1）ア（ア）生物の観察 校庭や学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物が様々な場所で生活していることを見出すとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付け、生物の調べ方の基礎を習得すること。</p> <p>2（7）ア（イ）自然環境の調査と環境保全 身近な自然環境について調べ、様々な要因が、自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。</p> <p>2（7）ウ（ア）自然環境の保全と科学技術の応用 自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを確認する。</p>	<p>3. 主として、自然や崇高なもののかかわりに関すること</p> <p>(1)生命の尊さを理解し、かけがいのない自他の生命を尊重する。</p> <p>(2)自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。</p> <p>(3)人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。</p>	-



それぞれの地域環境によって特色ある多様な生物が育つ。環境変化によって絶滅危惧種や外来種などの生物の移り変わりにより河川環境も多様化する。



川の生き物と人間の生活環境が関わって生態系としての循環システムのつながりを持ち、さらに人と人が関わっている。



家族に聞き取り調査をすることや友だちとの関わりを考え、自分と異なる意見や立場を大切に、互いに協力して問題解決している。



川の調査から絶滅危惧種と外来種の関係や人間生活からのつながり・かかわり・ひろがりを理解し、それらを多面的・総合的に考えることができた。



調査したシートを使い、グループで話し合い発表する。実証で自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、コミュニケーションを行う能力を高めた。



ふるさとの今と昔を比較したことで、人・もの・こと・社会・自然などと自分のつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度を身につけた。

活動・学習内容

指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕

地域の自然を調べよう！

日本の自然を山・里・まちにつなげてみる
いまと昔の生き物について

- ①身近な生物で絶滅の危機に瀕している生物を調べる。
- ②昔の生活の中に見られた生物について、祖父母から聞き取り、現在なくなった生物の要因を考える。
- ③レッドデータブックに載っている生物を確認するとともに、問題視されながらも改善されていない理由を考える。

事前に家族・地域の方に聞き取り調査をしてシートにまとめる。いまと昔の生き物について違いを気づかせる。

- ①身近な生物で絶滅の危機に瀕している生物を気づかせる。
 - ②昔の生活の中に見られた生物について、祖父母から聞き取り、現在なくなった生物の要因を考える。
 - ③「レッドデータブック」などを使って、絶滅の危機に瀕している身近な生物を確認できるようにする。
 - ④生物の減少の原因に、人間の営みが大きく関わっていることを気づかせる。
 - ⑤外来生物が駆逐している状況など、絶滅危惧種と外来種の間接関係を考えよう。
- 〔《資料》保全事例案 ヒント 〕

1時間目

批判 未来

多面 伝達

協力 関連

参加

（川の調査）フィールドワーク

生き物調査（移動＋活動）
済世橋上流、西部小学校前で実証

- ①外来生物
 - ②希少生物
- 場所 弘田川

【調査活動】
学校周辺の弘田川で生態系の観察を行う。外来生物、希少生物などの分布調査をさせる。
〔バケツ、タモ網、生物シート、図鑑〕

2・3
時間目

批判 未来

多面 伝達

協力 関連

参加

活動・学習内容

指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕

4時間目

持続可能な社会のための行動をしよう！

全体発表（6グループ）

講師 まとめ

持続可能な社会のためにまちの中にどのような自然が必要なのか？

- ①これまでの調査から、共生社会のイメージについて考える。
- ②人間と動物の「棲み分け」が共生社会のキーワードであることに気付く。
- ③自分たちがやってみたい活動を発表する。

発表とまとめ

6グループ×5分＝30分

まとめ10分

- ①生物多様性の維持活動をグループで考え、発表の場を設定する。
- ②最後に自分の生き方のキーワードを発表、記録する場を設ける。

【帰りの会】実証アンケート記載にてふりかえり
〔四国の水〕

批判

未来

多面

伝達

協力

関連

参加

地域プログラム化メンバー、実証協力校等

地域プログラム化メンバー

- ・香川大学
- ・善通寺こどもエコクラブ
- ・善通寺市役所民生部環境課
- ・善通寺市教育委員会
- ・NPO法人えひめグローバルネットワーク
- ・善通寺市立西中学校

実証協力校

- ・善通寺市立西中学校